

平成30年度事業の点検及び評価の概要

平成30年度事業計画の達成状況について、点検・評価の結果は次のとおり。

No.	取組	行動目標	評価指標	H30の状況 (H29)	達成度 (H30/目標)
			(H30目標)		
1	すべての県民への図書館サービスの提供	(1) どこでも、いつでも、誰でも、使える図書館	●利用登録者数 52,000人	41,139人 (42,867)	79.1%
		(2) 地域の文化・産業を支える図書館	●遠隔地返却の利用数 3,200冊・点		
		(3) 仕事や生活に役立つ図書館		3,108冊・点 (2,613)	97.1%
		(4) 若い人に読書の愉しみを伝え知の力を育てる図書館			
		(5) 生涯学習を支える図書館			
2	市町村立図書館等への支援	(1) 資料の提供	●あいちラストワン・プロジェクト 参加市町村数 48市町村	47市町村 (47)	97.9%
		(2) 除籍される資料の保存と「あいちラストワン・プロジェクト」の推進			
		(3) 運営の助言			
		(4) 人材の育成			
3	サービスを広げる図書館ネットワークの形成	(1) 「資料搬送・情報」のネットワーク	●県内及び東海北陸地区の協力貸出・相互貸借数 合わせて 7万冊・点	65,595冊・点 (65,970)	93.7%
		(2) 「にぎわい」のネットワーク			
		(3) 「人」のネットワーク			
		(4) 「危機対応」のネットワーク			
4	図書館活動を支える県図書館の体制の整備	(1) 拠点図書館としての資料の収集と保存	●インターネットアクセス数 1,583,000回	1,109,443回 (1,128,996)	70.1%
		(2) 職員の育成と効率的な組織づくり			
		(3) 新たな図書館サービスの調査研究・開発			
		(4) 利便性の高い施設づくり			
		(5) 効果的な広報活動			

【概要】

- <評価指標 1>・利用登録者数は、近年来館者数とともに連続して減少傾向にあり、平成30年度も前年度より1,728人減少した。
- ・遠隔地返却の利用については、昨年度より495冊増加して3,108冊となった。（遠隔地返却の自治体に在住する利用登録者は、平成30年度末現在2,281人で昨年度より85人増加している）
- <評価指標 2>・図書館設置自治体48のうち47の自治体と同プロジェクトに参加。（未参加：豊川市）
- <評価指標 3>・県内及び東海北陸地区の協力貸出・相互貸借の冊・点数は、昨年度から375冊・点減少している。
- <評価指標 4>・インターネットアクセス数（トップページビュー数）は、ここ数年減少が続いている。（蔵書検索ページアクセス数も188万（H29）、178万回（H30）と減少傾向で推移）
- 評価指標の目標値に対して、「あいちラストワン・プロジェクト」参加市町村数、県内及び東海北陸地区への協力貸出・相互貸借冊・点数が90%以上達成している一方、利用登録者数、インターネットアクセス数は減少傾向が続いている。

【評価区分】

A:計画を大きく上回った
B:計画をやや上回った
C:計画通り
D:計画を大きく下回った
E:計画を大きく下回った

平成30年度事業計画の評価 (41項目)	(参考) 平成29年度
事業項目20のうち A評価：2項目 B評価：4項目 C評価：12項目 D評価：2項目	B評価：4項目 C評価：14項目 D評価：2項目
事業項目5のうち A評価：1項目 B評価：2項目 C評価：2項目	B評価：2項目 C評価：2項目 D評価：1項目
事業項目4のうち A評価：2項目 B評価：1項目 C評価：1項目	B評価：2項目 C評価：2項目
事業項目12のうち B評価：4項目 C評価：8項目	B評価：3項目 C評価：8項目 D評価：1項目
A：5、B：11、C：23 D：2、E：0	A：0、B：11、C：26 D：4、E：0

<事業の評価>

- 41項目中、A評価が5、B評価が11、C評価が23、D評価が2項目、そしてE評価は0であった。昨年度に比し、A評価については昨年度0項目であったのが、5項目に増加。A評価となった項目は「情報の入手に有効なオンラインデータベースを積極的に導入します」「ボランティア活動の機会を提供するとともに、ボランティアとの協働を充実します」「市町村立図書館の人材育成を支援します」「県内図書館等と連携したイベントの充実を図ります」「図書館の関連機関との人的な連携を深めていきます」である。当該項目に関する事業が堅調に進捗したと言える。
- A評価が増加した一方で、D評価は4項目から2項目に減少した。D評価となった項目は「地域資料のデジタル化を推進します」「若年層に向けた新しいイベントを開催します」の2項目である。
- 令和元年度には、D評価となった事業分野について改善を図ることとしたい。

平成30年度事業の点検・評価（詳細）

(評価区分)
 A: 計画を大きく上回った D: 計画をやや下回った
 B: 計画をやや上回った E: 計画を大きく下回った
 C: 計画どおり

【取組1】すべての県民への図書館サービスの提供				
行動目標	事業項目	平成30年度		
		事業計画	達成状況	評価
(1) どこでも、いつでも、誰でも使える図書館	① 協力貸出を申し込んでから届くまでの日数を短縮します	週2便の対象館拡大など搬送体制の強化について検討	資料搬送費が高騰する中、搬送スケジュールや業務の効率化を検討し、週1便体制を維持。	C
	② 個人貸出を行っていなかった、地域資料を貸出できるようにします	地域資料のうち貸出希望の多い資料は同一本を他部門で用意し貸出を実施（継続実施）	地域資料のうち貸出利用が見込まれる資料85冊について、同一本を他部門で用意し、貸出を実施した。	C
	③ 雑誌を協力貸出の対象とし、市町村立図書館で利用できるようにします	4月から試行を開始した雑誌の協力貸出を検証し、問題点を改善	9月まで試行を行い、51件195冊の協力貸出をした。問題点を検証・改善し、10月から本実施に移行。平成30年度は試行期間とあわせて73件279冊を協力貸出した。	B
	④ 遠隔地返却制度の対象範囲の拡大を図ります	a 新たに安城市を対象地に追加 b 対象範囲（県図書館から25km圏外）の拡大の可能性を検討	a 安城市を対象地に追加した。 b 現在対象範囲ではない図書館に対する意向調査の実施を検討したが、実施せず。	C
	⑤ デジタル資料を積極的に導入します	本館所蔵の愛知に関連した貴重本を順次調査し、「貴重本デジタルライブラリー」にタイトルを追加（継続実施）	「貴重本デジタルライブラリー」に新たに『愛知県人物誌』始め12タイトル（前年度比2点(14%)減）を追加し、計188タイトルとなった。	C
	⑥ 県図書館での障害者、高齢者、外国人などへのサービスを拡充します	a 視覚障害者サービスを必要とする方へ効果的なPRを実施するため先進館の取組みを調査する他、高齢者に対する健康講座等を開催。 b 外国人県民等への学習支援を県教育委員会と連携して実施	a 視覚障害者サービスについて、明生会館や県社会福祉協議会を訪問し、PR方法等の調査を行った。また、健康講座として、認知症に関する講座やがん相談会を実施した。 b 高校中退者等を対象とし、学習支援及び相談・助言を行う県教育委員会の事業「平成30年度若者・外国人未来応援事業」に協力し、会場を提供した。会場に県図書館の案内等を置き、利用促進を図った。	C
	⑦ 市町村立図書館との連携を深めます	図書館研修実施要綱に基づく館内研修の市町村職員へ開放（継続実施）	館内研修6回を市町村職員に開放した。（参加者延べ337人、うち市町村からの参加者40人）	C
(2) 地域の文化・産業を支える図書館	⑧ 地域資料を重点的に収集します（重点分野を年度ごとに決めて収集します）	地域に関する資料を重点的に収集、特に愛知のものづくり文化関係の資料を中心に収集	愛知県内製造業の社史、中部産業遺産研究会発行の産業遺産関係資料などの愛知のものづくり文化関係の資料を中心に約1,800冊の地域資料を収集した。	C
	⑨ ホームページで公開している「貴重本デジタルライブラリー」を拡充します	「貴重本デジタルライブラリー」に、本館所蔵の愛知に関連した貴重本を順次調査して、タイトルを追加（継続実施）（⑤再掲）	「貴重本デジタルライブラリー」に新たに『愛知県人物誌』始め12タイトル（前年度比2点(14%)減）を追加し、計188タイトルとなった。	C
	⑩ 地域資料のデジタル化を推進します	a 愛知のものづくり文化に関する資料を中心に新規に資料を収集して、デジタル化対象資料のデジタル情報の整備を実施（継続実施） b 自館の地域資料をデジタル化するためデジタル撮影及びデジタルアーカイブへの掲載を継続	a 「木曾長良揖斐三川改修後之図」、「尾張藩家中役付帳」などの地域の歴史資料を含め、愛知のものづくり文化関係の資料を中心に約1,800冊の地域資料を収集した。 b 自館の地域資料をデジタル化するため、引き続きデジタル撮影の方法・精度等について検討したが、掲載には至らなかった。	D
	⑪ ホームページ内に「愛知県関係資料ポータル」を新設します	ポータルサイト内の連携機関リストを増やす(県史編さん室、博物館等)、データ・リンク等のメンテナンスと情報の追加を実施（継続実施）	ポータルサイト内の連携機関リストについては検討のみで増加に至らなかった。データ・リンク等のメンテナンスを行ったほか、当館のデジタルアーカイブのリンクバナーを追加し、利便性が増した。	C
	⑫ 産業分野に関連する資料を重点的に収集します	a 全国の社史・団体史（特に新しく刊行されたもの）を収集 b 「ものづくり」を担う個人や企業に有用な産業・工学分野及び地域の産業事情・産業史に関する資料の収集	a ビジネス情報コーナーに、社史・団体史に関する資料1,300冊を配置した。 b 「ものづくり」関連経費により、「ものづくり」に資する資料を新たに164冊購入して収集に努めた。	C

【取組1】すべての県民への図書館サービスの提供				
行動目標	事業項目 No.	事業計画	平成30年度	
			達成状況	評価
(3) 仕事や生活に役立つ図書館	13	情報の入手に有効なオンラインデータベースを積極的に導入します a 既存DBや予算配分の見直しなどにより新規DB導入の検討 b 新規ジャンル(ものづくり等重点収集分野)のオンラインDBの有用性の検証	ab 産業資料に関する先進図書館を調査するとともに、科学技術文献データベース「JDreamIII」、毎日新聞記事データベース「毎索」、読売新聞記事データベース「ヨミダス歴史館」について検討。予算配分を見直し、新たにオンラインDBを1種類(『JDreamIII』)導入して提供するに至った。また、中日新聞データベースに切抜イメージと、朝日新聞データベース「聞蔵」の全国の地域面のオプション契約を追加し、利便性を高めた。	A
	14	資料の配置や表示をより利用しやすいものにします 掲示・サイン要領に基づき、サイン表示について必要な見直しを実施	掲示・サイン要領を5月に作成し、これに基づき全館の掲示板やショーウィンドウの見直しを実施した。掲示板の古い掲示物を除去し、新しく作成する場合は文字だけでなくピクトグラムなども利用し分かりやすさに努めた。掲示板は随時見直しを実施している。	C
育(4) 若くして読書を楽しむ力を	15	若年層に向けた新しいイベントを開催します スーパー・プロフェッショナル・ハイスクールやスーパー・サイエンス・ハイスクールなど特色ある活動に取り組んでいる県立学校を紹介する企画を実施	県立福江高等学校の学習成果を紹介する企画について、県教育委員会や学校とR1年度の実施に向けた協議を行ったのみであった。	D
	16	インターネットを利用した若年層向けの情報発信を充実します イベント(てこぼん大賞など)についてホームページからの参加やPRを継続。県内図書館の中高生向けコーナー紹介ページ「ティーンズリンク」参加館の拡大	「第7回てこぼん大賞」について、ホームページ投票フォームからの投票の受け付け、及び近隣の学校、市町村立図書館等へのチラシの配布などPR活動を継続実施した。その結果、ほぼ例年並みの44件の応募があった。また、県内市町村立図書館への「ティーンズリンク」参加の呼びかけを継続し、参加館を44館から46館に拡大するとともに、対象を高等学校に拡大し5校の参加を得た。	B
	17	高等学校など関係機関との連携や支援を実施します 地元の図書館を経由した県立学校への協力貸出について拡大。また、県立学校と連携して学校図書館での展示やブックトークなどを実施	地元の図書館を経由した県立学校への協力貸出対象校を2校から6校増し、計8校に拡大した。平成30年度はこの方式により6校に441冊を貸出し、学校におけるグループ学習や修学旅行の事前学習等に活用された。この他、矯正教育施設図書室における支援の相談に応じるとともに、展示用の資料の貸出を行った。	B
(5) 生涯学習を支える図書館	18	資料や情報を利用するための力の向上のお手伝いをします a データベース等に関する講座等一般向け図書館資料利用講座を開催 b パスファインダー(調べ方ガイド)について所要の改訂を実施するとともに、新規テーマを作成	a 新聞活用講座「データベースで新聞記事を探そう」を開催した。(参加者:3人) b パスファインダーについて点検を行い、必要に応じて改訂を実施。新規に「会社について調べる」を作成し、館内配付・ホームページで公開した。	C
	19	ボランティア活動の機会を提供するとともに、ボランティアとの協働を充実します あかちゃん向けおはなし会を4月から毎月第2・第4水曜日午前に定期開催し、おはなし会サポーターのレベルアップのため年1回勉強会を開催	新たにあかちゃん向けおはなし会を開始し、年間23回の開催で408人の参加があった。また、おはなし会サポーターのレベルアップのための勉強会を3月に開催した。	A
	20	資料や情報を媒介としたコミュニケーションの場の提供に努めます Yottekoを中心に、調べ学習やワークショップの実施に必要な場や資料を整備	Yottekoでのワークショップ・講演会等の実施環境や利用者の学習環境を整備するため、フリスビー型テーブル4台、液晶プロジェクター1台、液晶ディスプレイ1台(台座含む)、書画カメラ1台、折り畳みテーブル5台を購入、設置等を行った。	B

【取組2】市町村立図書館等への支援					
行動目標	事業項目 No.	平成30年度			
		事業計画	達成状況	評価	
の(1)提供資料	㉑	県内の図書館の所蔵資料に関する情報を迅速・的確に入手できるようにシステム等を整備します	次期図書館電算システムの更新に向け、情報環境の変化への対応を踏まえ、仕様の必要な修正を実施	横断検索システムの性能向上を第五期図書館システム再構築業務委託仕様書において明確に要件化するとともに、同総合評価委員会において検討を行い、「評価項目及び評価基準」における横断検索の配点を高めた。	B
ロス存れ(2)推エワあ資進クンい料除ト・ちの籍のブラ保さ	㉒	県内最後の1冊となる資料を保存します	未参加の図書館設置自治体(1市)への参加の働きかけの継続とラストワン資料の受入・整理の継続	未参加の図書館設置自治体(1市)への働きかけを継続したが参加に至らなかった。ラストワン資料について1,112冊県図書館へ移管希望があり、うち841冊(前年度比79%)に搬入を許可した。	C
(3)運営の助言	㉓	県図書館へのニーズを把握するため、職員による市町村立図書館訪問を実施します	市町村の中央図書館の1/3以上への計画的な訪問を実施(継続実施)	名古屋市図書館始め17館(全47館)の市町村中央図書館への訪問を実施し、学校支援の打ち合わせや図書館運営に関する情報交換などを行った。	B
	㉔	図書館未設置町村の公民館図書室への支援を充実するとともに、自治体の理解を促します	公民館図書室の行う読書活動に関し、その推進と自治体の理解を促すために訪問を実施(継続実施)	図書館未設置町村のうち大治町及び豊山町を訪問し、公民館図書室の状況を確認したほか、県図書館の支援(リクエスト制度など)について案内した。	C
人材(4)育成	㉕	市町村立図書館の人材育成を支援します	a 市町村立図書館の職員に対し、引き続き参加型手法を導入し、内容を充実させた研修を実施 b 図書館地区別研修(東海・北陸)を開催	a 市町村立図書館の職員に対し、グループワーク、情報交換会など参加型手法を積極的に導入した研修を実施した。(17回実施。参加者:延べ470人)(㉑の館内研修参加者を除く) b 県教育委員会と連携し、図書館地区別研修(東海・北陸)を4日間開催し、前回、前々回を上回る延べ594人が参加した。(H29岐阜県開催・参加者122人、H28名古屋市開催・参加者167人)	A

【取組3】サービスを広げる図書館ネットワークの形成					
行動目標	事業項目 No.	平成30年度			
		事業計画	達成状況	評価	
ネ送(1)ツ情ワ料クの搬	㉖	効率的な資料搬送ネットワークにより相互貸借体制を維持・発展させます	東海・北陸地区の定期便の恒常的な運行を引き続き実施(継続実施)	東海・北陸地区の定期便を引き続き運行した。定期便により東海北陸地区図書館間の相互貸借資料2,698冊・点(前年度比89.8%)を運搬した。	C
(2)「にぎわい」のネットワーク	㉗	県内図書館等と連携したイベントの充実を図ります	a 東三河の公共図書館と連携し、次の「二度目の旅は図書館」を企画、実施 b 「明治150年」に関する企画展示を博物館明治村と、健康講座を県健康福祉部と連携して実施 他機関や団体等と連携しYottekoにおいてカフェ形式の講演会やワークショップを実施(年4回以上)	a 蒲郡市立図書館と連携して「二度目の旅は図書館から 蒲郡一海辺のまちの戦国時代」と題して、蒲郡市立図書館作製のパネル展示、観光情報の提供を行った。さらに蒲郡市立図書館司書によるライブラリートークを実施した。(参加者:35人) b 明治150年企画として、博物館明治村の学芸員による講演会「明治150年と明治村」を実施した(参加者:82人)。また、5回実施した健康講座(子ども向け含む)のうち、4回を県健康福祉部と連携して実施した。Yottekoにおいて、一般県民の方向けに、新た試みとして、大学の研究者や音楽師、コンテンツプロデューサーによるカフェ形式の講演会(パイオカフェ、リベラルアーツカフェ)を計5回開催した(参加者:計231人)。また、芸術文化センター県美術館と連携して学芸員によるカフェ形式の連続講座「美術と文学」を4回(参加者:計181人)し、あわせて9回開催した。児童向けにも大学の研究者や動物園の飼育係の方等を招き、ワークショップ「いきもの教室」を3回、「こどもの健康講座」を3回(参加者:計96人)、あわせて6回開催した。	A
(3)「人」のネットワーク	㉘	図書館の関連機関との人的な連携を深めていきます	a 「明治150年」や健康講座等イベントの実施において他機関や県各部署等との人的交流・連携を拡大 b 県内の社会教育関係者の研修等に参加し、人的交流・連携を拡大	a 蒲郡市立図書館と連携して「二度目の旅は図書館から 蒲郡一海辺のまちの戦国時代」と題して、蒲郡市立図書館作製のパネル展示、観光情報の提供を行った。さらに蒲郡市立図書館司書によるライブラリートークを実施した。(参加者:35人)(㉑再掲) b 県教育委員会主催の「公民館主事等社会教育担当者研修会」(3日間)に2人の職員を派遣した。この他、県政策企画局主催の「広報広聴研修会・やっつけられないチラシづくり講座」に3人、県健康福祉部主催「情報のユニバーサルデザイン普及セミナー」に1人、県統計協会主催の「統計データを活用した問題解決力向上セミナー」に1人職員を派遣し、積極的に図書館運営に関連する他分野の研修に職員を派遣を行った。	A
ネ機(4)ツ対クワの危	㉙	県内外の図書館や図書館関係団体等との連絡調整に努めます	防災・減災対策に努めるとともに、天災・人災等「危機管理」に関する研修や講演会を実施し、県内図書館等と問題意識を共有化	「図書館の危機管理」をテーマに、講義とグループワークを組み合わせ多面から学ぶ研修を実施した(参加者:42人)	B

【取組4】図書館活動を支える県図書館の体制の整備				
行動目標	事業項目	平成30年度		
		事業計画	達成状況	評価
(1) 拠点図書館としての資料の収集と保存	⑩ 資料収集計画を策定し、市町村立図書館では購入しにくい資料などを計画的に収集します	改正した資料収集方針に基づき、重点分野を中心に資料を収集	重点分野の資料（ものづくり文化資料約3,800冊、地域資料約1,800冊、健康・医療資料約1,100冊）を含め、購入、寄贈を合わせ約13,000冊を収集した。	C
	⑪ デジタルで利用可能な資料への対応を図ります	a 「貴重本デジタルライブラリー」に、本館所蔵の愛知に関連した貴重本を順次調査して、タイトルを追加（継続実施）（⑤再掲） 自館の地域資料をデジタル化するためデジタル撮影及びデジタルアーカイブへの掲載を継続（⑩再掲） b 既設予算の配分の見直しなども含めた新規DB導入方法の検討（⑬再掲） c 新規ジャンル（ものづくり等重点収集分野）のオンラインDBの有有用性の検証（⑬再掲） d 「産業技術の歴史と地理から展望する新産業地域学」（平成30年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」）への協力及びこの研究の枠組みの中で県図書館が担う役割についての研究を継続。	a 自館の地域資料をデジタル化するため、引き続きデジタル撮影の方法・精度等について検討したが、掲載には至らなかった。（⑩再掲） bc 産業資料に関する先進図書館を調査するとともに、科学技術文献データベース「JDreamIII」、毎日新聞記事データベース「毎索」、読売新聞記事データベース「ヨミダス歴史館」について検討。予算配分を見直し、新たにオンラインDBを1種類（『JDreamIII』）導入して提供するに至った。また、中日新聞データベースに切抜イメージと、朝日新聞データベース「聞蔵」の全国の地域面のオプション契約を追加し、利便性を高めた。 d 新学術領域研究「新産業地域学」の科研費申請のプレゼンテーション資料の素材として「図書館等における研究報告」に関連してYottekoの写真を提供した。また12月に岡崎市で行われた会社見学会（東海光学(株)）及び新産業地域学ワークショップに参加し研究者との情報共有に努めた。	C
	⑫ 資料の補修の方針を策定し、計画的に実施します	資料補修計画に従い、必要な補修を実施し、職員間の技能の継承を実施（継続実施）	資料補修計画に従い、必要な補修を実施。職員向けの資料補修研修を1回実施した。（参加者：5人）	C
(2) 職員の育成と効率的な組織づくり	⑬ 人材の育成に努めスキルアップを図ります	県政の課題解決を担う図書館職員を育成するため策定した図書館研修実施要綱に基づき、グループワークなど参加型研修手法を積極的に導入した研修を実施	グループワークなど参加型研修手法の他、職員による事例発表や館内での実地調査を導入した図書館研修を7回実施した。（参加者：計357人）	B
	⑭ 組織運営の点検・見直しを行い、改善を図ります	a 運営方針後半5年の行動計画を策定 b 4つの集客PTにより他機関・団体と連携して企画展示を実施するとともに、効果的なPRを実施 c 図書館研修実施要綱に基づき、グループワークなど参加型研修手法を積極的に導入した研修を実施（⑬再掲）	a 後半5年の行動計画(骨子案)に関する図書館専門委員会(H30.6)の意見を踏まえ館内での検討を行い、H31.3の図書館専門委員会での協議を経、H31年度からH35年度を対象期間とする後半5年の行動計画を策定した。 b 明治150年企画「明治維新のふるさとを訪ねて」や本県のものづくり文化にフォーカスした企画「愛知のやきもの」等について、他県や県内の博物館等と連携し、資料の収集・展示、講演会を実施した。また、記者発表やtwitterなどSNSを利用した広報の他、企画展示の会場であるYottekoの紹介動画を作成し、ホームページで公開した。 c グループワークなど参加型研修手法の他、職員による事例発表や館内での実地調査を導入した図書館研修を7回実施した。（参加者：計357人）（⑬再掲）	B

【取組 4】図書館活動を支える県図書館の体制の整備					
行動目標	事業項目 No.	事業計画	平成30年度		
			達成状況	評価	
査(3)研究・新たな図書館サービスの調	35	新しい図書館サービスを調査研究し、先進的なサービスを試行します	a H29年度策定した計画に基づき、県及び市町村の地域資料の刊行状況調査に合わせ、資料のポーンデジタル化の状況調査を実施。県関係のポーンデジタル資料は調査時に紙への媒体変換等による収集を実施 また、地域資料の自館撮影によるデジタル化についての試行を継続(㊦a後段参照) b「明治150年」に関する企画展示を博物館明治村と、健康講座を県健康福祉部と連携して実施 他機関や団体等と連携しYottekoにおいてカフェ形式の講演会やワークショップを実施(年4回以上)(㊦再掲)	a 県関係のポーンデジタル資料の刊行状況の調査を行い、5点の資料について紙への媒体変換を行った。 b 明治150年企画として、博物館明治村の学芸員による講演会「明治150年と明治村」を実施した(参加者:82人)。また、5回実施した「健康講座」(子ども向け含む)のうち、4回を県健康福祉部と連携して実施した。 Yottekoにおいて、一般県民の方向けに、大学の研究者や音楽師、コンテンツプロデューサーによるカフェ形式の講演会(パイオカフェ、リベラルアーツカフェ)を計5回開催した(参加者:計231人)。また、芸術文化センター県美術館と連携して学芸員による連続講座「美術と文学」を5回開催した(参加者:計181人)。 児童向けにも大学の研究者や動物園の飼育係の方等を招き、ワークショップ「いきもの教室」を3回、子供の向けの「健康講座」を3回開催した(参加者:計96人)。(㊦再掲)	C
(4) 利便性の高い施設づくり	36	居心地良く快適に利用できるよう、施設環境を整備します	a 引き続きYottekoの机・椅子等の什器類、広報用のディスプレイ等の整備を実施 b 昨年度の試行を踏まえ、大会議室の学習室開放を実施	a Yottekoでのワークショップ・講演会等の実施環境や利用者の学習環境を整備するため、フリスビー型テーブル4台、液晶プロジェクター1台、液晶ディスプレイ1台(台座含む)、書画カメラ1台、折り畳みテーブル5台を購入、設置等を行った。(㊦再掲) b 大会議室の学習室開放を24日間実施、延べ967人(1日平均40.3人)の利用があった。	B
	37	安心して利用できるよう、施設の点検・修繕を計画的に行います	非常用自家発電設備修繕工事、冷温水発生機電装部品・燃焼装置修繕工事、5階大会議室AVシステム修繕工事及び5階レストラン厨房等、小・中会議室、研修室エアコン設備修繕工事を実施	非常用自家発電設備修繕工事については3月に修繕を完了、冷温水発生機電装部品・燃焼装置修繕工事については12月に修繕を完了、5階大会議室AVシステム修繕工事については8月に修繕を完了、5階レストラン厨房等、小・中会議室、研修室エアコン設備修繕工事については7月に修繕を完了した。	C
	38	サービスの水準を高めるのに必要な機能の整備に努めます	a 電動集密書架増設計画の策定 b 授乳室の整備計画の策定	a 電動集密書架増設計画を策定して、予算要求をした。令和元年度は事業経費の獲得ができなかった。 b 授乳室は昨年度策定した整備計画に基づいて元年度中に工事予定である。	C
(5) 効果的な広報活動	39	スマートフォン対応のホームページを整備します	次期図書館電算システムの更新に向け、情報環境の変化を踏まえたスマートフォン対応ホームページ仕様を作成	第五期図書館システムにおけるスマートフォン用OPAC機能の操作性向上を目的とし、同機能の仕様について、情報企画課及びITコンサルの適正化支援を得つつ検討を重ね、確定した。	C
	40	ホームページに子どもの読書活動を支援するページを設置します	子どもの読書支援のホームページに、読みきかせボランティアの参考になる紙芝居のテーマ別リスト、あかちゃん向けおすすめ絵本のブックリストを順次掲載	子ども読書支援や児童図書室のホームページに、読みきかせボランティアの参考になるブックガイドとして「おはなし会ブックトーク紙芝居・パネルシアター・ペープサート」「読み聞かせストーリーテリング」「手遊び わらべうた ことば遊び 小道具」「あかちゃん絵本おすすめリスト」を掲載。またおすすめの新书推荐する「じどうとしょつたより」も年4回掲載した。	C
	41	他機関と連携して互いの行催事の情報発信します	a 県内図書館の共通イベント「@ライブラリー」参加拡大の働きかけを実施。県内図書館の中高生向けコーナー紹介ページ「ティーンズリンク」参加館の拡大(㊦後段再掲) b 「学びネットあいち」(愛知県生涯学習推進センター)や「AELネット」(愛知県環境学習施設等連絡協議会)等と共同して情報発信を実施	a 県内図書館共通イベント「@ライブラリー」として、「高校スポーツ」のテーマで24館で26イベント、「見る知る食べる!あいちの観光」のテーマで12館15イベントの広報を実施した。また県内市町村立図書館への「ティーンズリンク」参加の呼びかけを継続し、参加館を44館から46館に拡大するとともに、対象を高等学校に拡大し5校の参加を得た。(㊦後段再掲) b 県生涯学習推進センター(県教育委員会生涯学習課)が運営する「学びネットあいち(愛知県生涯学習情報システム)」に「いきもの教室 名古屋城外堀ヒメボタルとみんな」「あかちゃん向けおはなし会」等の企画・展示事業28件を情報発信し、また、県とAELネット(県環境学習施設等連絡協議会)とが連携して実施する環境学習スタンプラリーの対象施設として参加し、環境学習の一翼を担う施設としてPRに努めた。	B